opusdei.org

「命を選べ」(1)

聖性への道――それは「与える」だけでなく、何よりも「受ける」旅路です(シリーズ「戦い、親しさ、使命」第1回)。

2025/07/18

あの少年は、質素で擦り切れた服を 着ていたにもかかわらず、教会に入 りオルガンの力強い音に包まれる と、まるで自分が王子であるかのよ うに感じました。「あのオルガンの 音は、私と仲間を王子として迎えて くれているかのように思えまし た」。このようにイタリア北東部の 小さな村カナーレ・ダゴルドで幼少 期を過ごしたアルビーノ・パウロに でるでいます。この幼い頃の体 とています。このはいる 関連に彼は「後に確信とない。 を見ていは、カトリック教会は、カトリック教会は、カトリック教会はない。 た。それは、カトリック教会はない だ偉大にしてくれる」「1」というも をも偉大にしてくれる」のでした。

「命を選べ」

先の福者の言葉は、聖母マリアの「マニフィカト」を思い起この賛であるマリアの替動の言葉「Magnificat」は「いう意味を持っています。マリアはでいう意味を持っています。マリアはいう意味を持っています。なぜならるがでからます。「主はその腕で力を振るれいる者を打ち散らし、権力ある

者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」(ルカ1・51-53)。

このマリアの替歌とともに聖ルカ は、ある意味〈イエスのマニフィカ ト〉とも呼べるものを伝えてくれて います。アイン・カリムでイエスを 胎に宿したマリアが神を賛美したよ うに、イエスもまた、御父が小さな 者に心を注いでくださっていること を見て「聖霊によって喜びにあふれ て | 言われます。「天地の主である 父よ、あなたをほめたたえます。こ れらのことを知恵ある者や賢い者に は隠して、幼子のような者にお示し になりました。そうです、父よ、こ れは御心に適うことでした。 すべて のことは、父からわたしに任せられ ています。父のほかに、子がどうい う者であるかを知る者はなく、父が どういう方であるかを知る者は、子

と、子が示そうと思う者のほかには、だれもいません」(ルカ10・21-22)。

この小さな者たちに主が示されたも のとは、いったい何だったのでしょ うか?マリアとヨセフに始まり、主 に従った使徒たちや女性たち、そし て20世紀にわたって信仰に生きたた くさんのキリスト者たちに至るまで 続く、この〈謙遜な者への啓示〉と は、何を指すのでしょうか?彼らを 偉大にしたものとは何だったので しょうか?申命記はその手がかりの ひとつを与えてくれます。主は、荘 厳かつ優しい口調で、ご自分の民の 心に語かけられます。「見よ、わた しは今日、命と幸い、死と災いをあ なたの前に置く。(…)わたしは今 日、天と地をあなたたちに対する証 人として呼び出し、生と死、祝福と 呪いをあなたの前に置く。あなたは 命を選び、あなたもあなたの子孫も 命を得るようにし、 あなたの神、主 を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命であり、あなたは長く生きて、主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた土地に住むことができる」(申命記30・15、19-20)。

この箇所は「あなた」と「あなたた ち というふたつの呼び方を用い て、主が単に民全体に語りかけてお られるだけでなく、一人ひとりに 語っておられることを強調します。 「命を選ぶ」という選択は、根本的 には各個人がそれぞれの心の中です る決断なのです。「命」――この言 葉を、聖ホセマリアはよく大文字で 書いていました(la Vida)。それ は、恵みと栄光、すなわち神ととも に生きる「命」を意味していたから です。地上で、そしてやがて天で、 神とともに生きる「命」です。1975 年6月、天に召される数日前に、聖 ホセマリアはこう語っています。

「私たちは皆、キリストと同じ 『命』を生きています。そしさんとます。だけることがたいしますがいいであるように、でまずで書がはないで書かれたの。生きるに、なってするものません。手の中のように、流れ去っていきます」に、流れ去っていきます。

ません。彼らは、人生における真の 成功、完成とは、神の愛に自分を浸 すことであり、その愛を惜しみなく 分かち与えることだと理解したので す。主はマルタの妹について「マリ アは良い方を選んだ。それを取り上 げてはならない | と言われました (ルカ10・42)。また弟子たちにも こう語って励まされます。「小さな 群れよ、恐れるな。あなたがたの父 は喜んで神の国をくださる」(ルカ 12・32)。小さな者たちは、神に よって生きているのです。それこそ が彼らを偉大にします。そしてそれ こそが「聖性」です――神によって 生き、そして神によって他者のため に生きるのです。

[1] アルビーノ・ルチアーニ (福者 ヨハネ・パウロー世)『カナーレ・ ダゴルド教会のオルガンの修復にあ たり』(A. Luciani (Beato Juan Pablo I), «In occasione del restauro dell'organo della chiesa di Canale d'Agordo», en Opera Omnia, Vol. 9, EMP, Padua 1989, p. 457)。

[2] 聖ホセマリア、家族の団らんメ モ、1975年6月7日 (San Josemaría, notas de una reunión familiar, 7-VI-1975, citado en S. Bernal, Monseñor Josemaría Escrivá de Balaguer. Apuntes sobre la vida del Fundador del Opus Dei; Rialp, Madrid 1980, 6° ed., p. 174) 『道』218、255、399、737番、 『拓』817番、『鍛』777、818番参 照 (Cfr. también p.ej. Camino, nn. 218, 255, 399, 737; Surco, n. 817; Forja, nn. 777, 818) 。

[3] ヨハネ4·10-14、5·39-40、7·37-39、10·10、11·25-27参照。

Carlos Ayxelà

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/combat-closeness-mission1-1/(2025/12/15)